

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろみ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 6日		～ 令和 7年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 20日		～ 令和 7年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・SSTでは、就学前に準備しておくべく基本となる挨拶や個別指示、集団指示、集団行動また、時間の感覚、対人スキルにおける人との関わり方距離間や言葉遣いを中心とした支援や排泄の自立、食事(おやつ)での自立・食べ方のマナーなどを日々の支援に取り入れ就学に備えた生活の基礎が成り立ち、困り事が少しでも減らしていける様取り組みを行っています。	・来所、退所時・余暇活動やレクリエーションを通しスタッフの声掛けや作業訓練、タイミング等を見計らい個人の成長を見ながら必要に応じ対応方法を見直ししています。また、事業所内だけに留まらず自宅や幼稚園、保育園とも共有し就学に備えた連携を図る事を心がけています。	・いずれの内容においても出来て当たり前と思わず、苦手だった事、自主的に出来なかった事を失敗しても行動に移せた事を認め、褒める事で自分自身で成長への向上心を芽生えさせ何事にも挑戦する気持ちを養える様にしていきたいと思ひます。
2	・学習でも就学前の基礎、座り方、鉛筆の持ち方、正しい姿勢、正しい書き順や順序、文字の形を主な支援としました、集中力の維持にも努める取り組みを行っています。慣れない環境、初めての事柄不安でいっぱいの新1年生になる為、少しでも不安の軽減を図り自分に自信を持ち新生活を迎えられる様、サポートをしています。	・未就学児の提供課題はカラー印刷をする事で興味が湧きやすくなる様に一人一人のスキルに見合った問題数や枚数、内容を保護者様と相談しながら提供をしています。また、枠に文字を収めて文字を書く事や正しく線をなぞる、つなげるを意識する事でバランスの取れた文字が書ける様に支援をしています。	・交通ルールや事業前の準備や片付けなど就学前に必要な事柄は他にも沢山ある為、スタッフ間で対象児童に当てはめ思考し支援する事で保護者様の不安軽減に努めていきたいと思ひます。
3	・レクリエーションを考案する際は、活動目的を明確にし全スタッフで共有する事で取り組み時特に意識し観察する事項を把握する事で共通意識を持って活動に参加出来る様になっています。また、児童にも目的を伝える事でレクリエーション内のルールや留意事項を意識し参加出来る様にし、ルールを守る事の必要性やポイントを抑える事で振り返りを行う際の自己分析の目安としている。	・計画を立てる時点で対象児童が楽しく参加できる様、事前準備や作業内容を工夫する事で工程事態の内容は違っていても最終的に他の児童と同じ物が作成出来る様になっている事や調理やおやつ作りでも盛り付けやキッチンパサミを用いる事で手指の訓練、学習でも述べている準備や片付けを行う事で就学前に必要な準備から片付けまでの訓練に繋がっていると思ひます。	・考案自体はスタッフもしくは児童の希望を取り入れているが、保護者目線で活動に取り入れて欲しい物の聞き取りの実施や考案だけではなく企画書の作成や事前準備等々の実践までに必要な事柄全てをスタッフと児童とで行いよりレクリエーションにおける取り組みの意味や充実度の向上を図ってきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・SST活動では現在当事業所で未就学児が1名しかいない為、個別での記憶の読み起こしではスタッフ、グループワークでは年上のお兄さん、お姉さんとのワークになってしまうのでどうしても発言権が少なくなりがちになってしまう為、同じくらの年齢の児童との関わりを増やしより就学に向けての準備がグループで取り組める様にしていければと思ひます。	・グループワークを行う際は出来るだけ年齢の近いもの同士での小グループの取り組みに変えたり、ワーク内の進行のみをスタッフが担いバランスよく会話を投げかけるなどしていなかった様に思う。	・左記でも述べている通り取り組み方の工夫や相談事業所に問い合わせを入れる事で未就学児の獲得を行っていく。
2	・上記でも述べている通り未就学児が1名しかおらず、対象児童はすでに学習面においてひらがな、カタカナ、足し算の習得引き算の習得段階にあり新しく入社されたスタッフはそれまでの過程を知らない為、未就学児の学習支援に対しての知識や取り組み方など経験不足な面がある。	・先に同じ	・新規で未就学児が利用される際は経験のあるスタッフと新人スタッフとで提供課題内容の確認や取り組み方法を確認しながら進め、経験値を積み上げていく。また、保護者様信頼獲得に繋げる為、送迎時にはより丁寧に取り組み時の様子をお伝えし成長に繋がっている事をお伝えしていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					
放課後等デイサービス くるみ		令和 7年 1月 27日					
		利用児童数				回収数	
		1名				1	
	チェック項目	6名	どちらとも いえない	4名	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
		1			1		
環境・体制整備	1	1					
	2	1					
	3				1		玄関ポーチと玄関に段差がありバリアフリーとしての設備は整っていない方が必要とする児童が利用される場合は設備の検討とスタッフの身体介助の教育を行おうと思っています。
	4	1					毎日スタッフ全員で掃除に当たり児童の安全確保を始め学習、余暇とスペースが確保されている為、場面の切り替えとしての役割も果たせていると思う。
適切な支援の提供	5	1					月に1度の各研修やミーティングを通じ児童の特性に合わせた支援方法を話し合う事でより専門性の高い支援が提供出来ていると思う。
	6	1					学習支援はもろろんの事、SSTではただ注意、指摘を行うのではなく次はどうする？どうした方が良かった？などその都度児童とフィードバックを重ねる事で支援内容と合っていると思う。
	7	1					アセスメントシート、取り組み内容を伝えるだけではなく児童の意思、保護者様の意向をヒヤリングを行い支援会議を開催している為、ニーズに沿った物を作成できていると思う。
	8	1					上記に同じ
	9	1					全スタッフが支援内容を把握し支援に当たれていると思われる為、今後も引き続きチームで支援を行っていききたい。
	10	1					目的をもってプログラムを考案する事で固定化を避ける事が出来ていると思う。単に楽しそうだからで考案していくのではなく意味、目的を持って今後も考案していききたい。
	11				1		
保護者への説明等	12	1					問い合わせ時、見学時、契約時また、変更があった際はその都度説明を行っている。
	13	1					作成後、再度ヒヤリングで受けた内容を保護者様に確認し計画書をを用いり説明をその都度行っている為、引き続き行っていききたい。
	14			1			個人情報に気をつける保護者様も見えるため、現実的には難しいが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
	15	1					連絡帳や利用時の体調観察を行う事で共通理解が行えている為、今後も引き続き取り組んでいきたい。
	16	1					
	17	1					
18				1			個人情報に気をつける保護者様も見えるため、現実的には難しいが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
19	1						モニタリング時に限らず、児童の様子に変化が見られた際や送迎時ご都合を確認し支援内容の確認や保護者様の困りごとに対しその場で的確にアドバイスをすると同時に内容が複雑な場合は一度事業所に持ち帰りチーム内で解決策を検討している為、引き続き取り組んでいきたい。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					SNSを通し保護者様だけでなく幅広い方々に知っていただける様な体制を作っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					オープン当初最寄りの消防署に確認を取り近隣の避難場所を災害内容にわけ確認しご契約時に各保護者様へ案内用紙をお渡ししています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					レクリエーション活動の中で児童に対しては月に1度、スタッフ間でも月に1度の研修を行ってはいませんが、災害発生を想定した実研修は今後の予定としています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス くるみ		令和 7年 1月 27日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4				
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6名		4名		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4				
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		聴覚過敏や痙攣のある児童がおられる際には個別室の開放を行い苦痛なく過ごせる環境を整えています。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		スタッフ同士情報共有する事で業務改善に努め、個人のペースや事業所の理念に沿って目標設定を行っています。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3				
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4				
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1		近隣事業所やグループ事業所内での意見を元に業務の見直しに努めている。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4			オープンしたばかりで日々の業務や新人育成に時間を割いてしまっている部分がある為、外部研修においては今後、積極的に参加をしていきたい。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		立案時、異議・目的を考え作成を行行い、事業所支援プログラムに沿った取り組みを行っている。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		作成後、再度ヒヤリングで受けた内容を保護者様に確認し計画書を用いり説明をその都度行っている為、引き続き行っていきたい。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		朝礼時や就業前に出勤スタッフが集まり支援会議の場を設けており支援に対し共通理解の場を設け、計画内容を作成している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		5領域の項目に当てはまった適切な内容になっているかも会議中に話し合う事で対象児童に対し適切な支援内容で作成が出来る。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2				
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2		児童からの希望も取り入れる事で固定化防止に努めている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3			見学时、契約時に事前説明を行っていると共にこちらから場の提案をする事で保護者様も安心して申し出を行って来ています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3			SNSを通し保護者様だけでなく幅広い方々に知っていただけの様な体制を作っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		児童に対する支援担当者もしくは児童が出席する事で児童の事をきちんと把握しているスタッフが対応している。また、会議前には事業所内で確認したい内容等集める事でより支援に対しての理解度を深められる様にしている。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			必要に応じ連携を図っているが、偏りも見られる為、バランスを取りながら連携を図っていききたい。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2			個人情報に気をされる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2			個人情報に気をされる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	3			出席スタッフを固定化せず内容の中から出席に適任と思うスタッフを選出している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1			地域の支援センター、相談員、また他事業所と連携を図る事で当事業所内で取り組める支援内容な何かを検討し実施している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。					個人情報に気をされる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3				個人情報に気をされる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4				問い合わせ時、見学时、契約時また、変更があった際はその都度説明を行っている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			面談時、送迎時等意向の確認また利用時には児童意思の確認する場を作り、必要に応じ計画書の内容を児童にも確認して頂いている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4					
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4					

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4		個人情報に気にとられる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			モニタリング時に関わらず、児童の様子に変化が見られた際や送迎時ご都合を確認し支援内容の確認や保護者様の困りごとに対しその場で的確にアドバイスを返すと同時に内容が複雑な場合は一度事業所に持ち帰りチーム内で解決案を検討している為、引き続き取り組んでいきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		個人情報に気にとられる保護者様も見えるため、現実的には難しい場合もあるが保護者様へ必要性を説明し理解の獲得に努めたい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		見学时、契約時でのヒヤリングまた利用時における情報確認を行っている。	
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		見学时、契約時でのヒヤリングまた利用時における情報確認を行っている。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4			身体拘束についての研修は行っているが、実際に必要とする児童の利用がない為、説明方法や施行事例に対しての検討が出来ていない。研修内で話し合い共通認識をもって支援に当たっていききたい。	